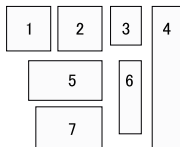
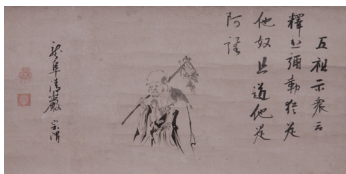
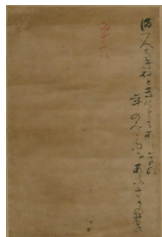


会期：平成24年9月4日～9月30日

小松市立本陣記念美術館は、小松市出身の故・本陣甚一氏が収集したコレクション約900点を收藏し、調査研究を行いながら、それらを展覧会でご紹介しています。全体に占める書画（日本画、画賛、書など）コレクションは、点数については陶磁器の約600点に及びませんが、美術的、歴史的に高く評価される作品がいくつも含まれており、極めて高い質を有すると言えるでしょう。

この度の展覧会では「本陣コレクションの書画」と題し、約30点の書画を展示し、優れた日本美術の数々に親しんでもらうとともに、本陣コレクションの書画の充実ぶりをご紹介します。

藤原定家筆と伝わる歌切（鎌倉時代）、蕉門十哲の室井其角の俳句軸、寛永三筆の一人・松花堂昭乗の画賛、大徳寺住持中の名筆・宙宝宗宇の一行物などと、近現代日本画を代表する堂本印象、平福百穂、案本一洋、奥田元宋らの優品を一挙に展示します。この機会にぜひご覧ください。



展示作品の例

- 1 「浮御堂」(日本画、案本一洋・画、明治末～昭和前期)
- 2 「妍春」(日本画、堂本印象・画、大正～昭和)
- 3 「藤原定家と歌切 待つ人は」(書跡、伝藤原定家・書、鎌倉時代、奥村因幡および前田家旧蔵)
- 4 「四海一家無事 一行」(書跡、宙宝宗宇・書、文化～文政)
- 5 「五祖大師図」(画賛、清巖宗渭・画/賛、慶長～寛文元)
- 6 「松平不昧画賛 朝顔」(画賛、松平不昧・画/賛、文化10年)
- 7 「住吉詣」(日本画、前田青椰・画、昭和)